

大雪山の火山活動解説資料（平成25年8月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～4）

旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上概ね100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。
7日から9日に実施した現地調査では、旭岳地獄谷爆裂火口の複数の噴気孔で、噴気温度が100℃以上の高温状態が継続していました。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

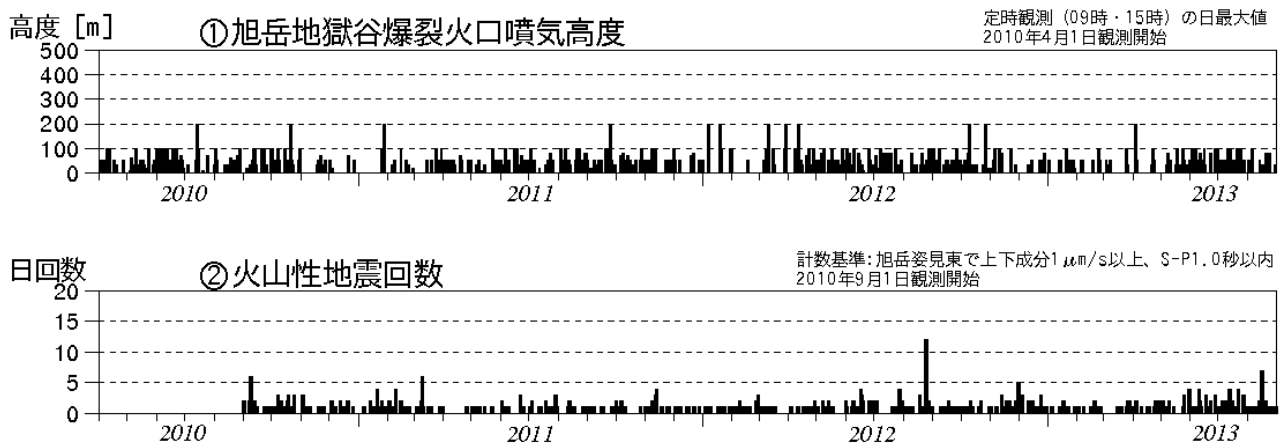


図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2013年8月）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

次回の火山活動解説資料（平成25年9月分）は平成25年10月9日に発表する予定です。

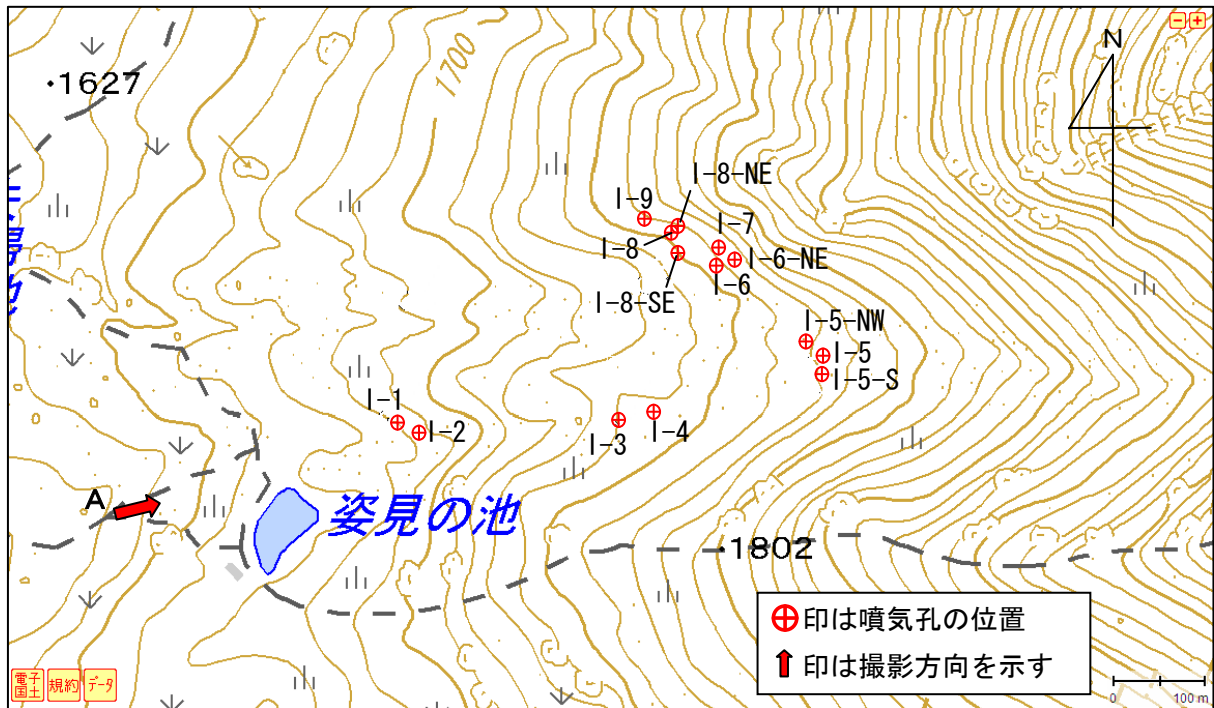


図2 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口 各噴気孔 (I-1~9)

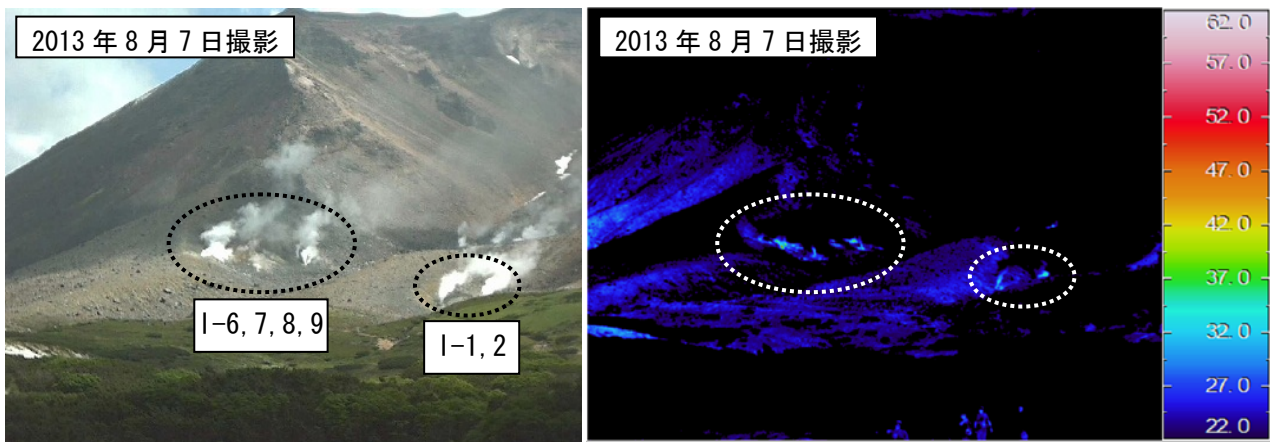


図3 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口 各噴気孔の位置 (左) と地熱分布状況 (右)
西側 (図2-A) から撮影



図4 大雪山 西側から見た旭岳の状況 (8月24日、ちゅうべつこひがし 忠別湖東遠望カメラによる)

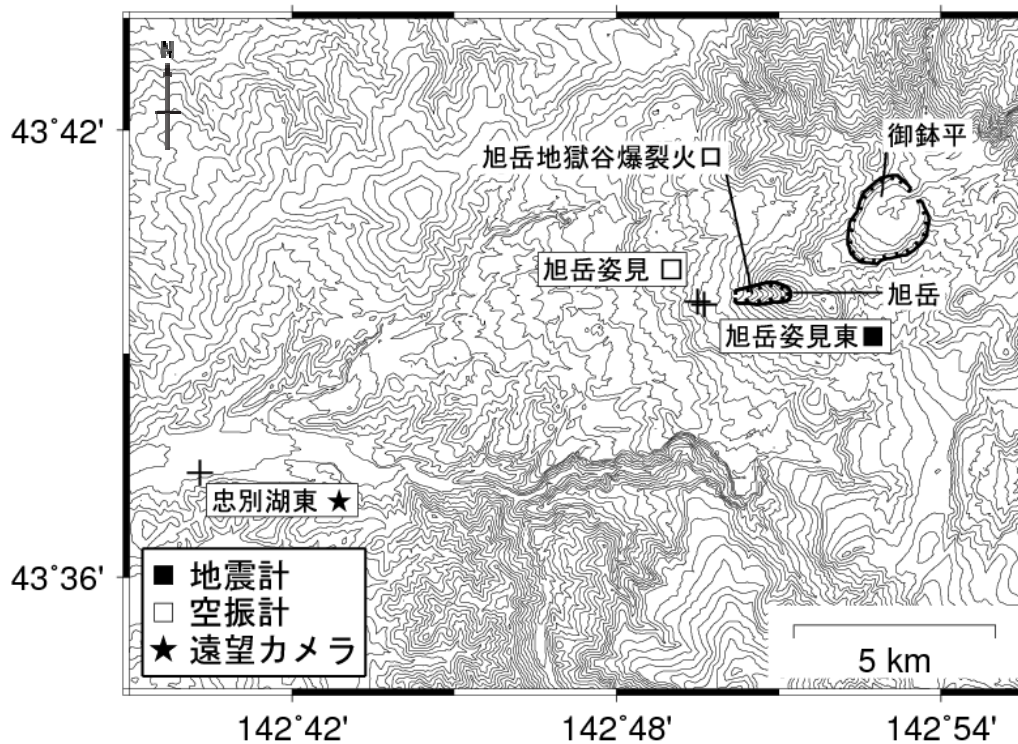


図5 大雪山 観測点配置図
+印は観測点の位置を示します